

Dynamic diagnosis に必要な 脊椎脊髄の神経症候学

福武 敏夫, 徳橋 泰明, 坂本 博昭【編】

評者

桑原 聡

千葉大学大学院医学研究院 神経内科学 教授

神経疾患の診療・研究は分子生物学, 画像診断の飛躍的發展を受けて, 病態が次々に明らかにされ, その病態に基づく分子標的治療の時代に入っている。しかし, 一線の神経疾患診療において最も重要なのは病歴に基づいて適切な診断と治療に向かうオリエンテーションであり, これは普遍的で今後も確固として変わらない。同時に臨床医は, 古典的王道である診断学と近年に発展した新技術を有機的に結び付け, 最も効率的な診療を行うことが求められている。

本書は, 10 年以上前の 2005 年に出版された「脊椎脊髄ジャーナル」の特集号で, 発刊以来売れ続けていた原版を, 新たに改版したものである。「Dynamic diagnosis」とは, 臨床的技術(病歴聴取・神経学的診察)と発展を続けている機械的技術をダイナミックに結び付けた新時代の診断学と定義されている。そして, その「Dynamic diagnosis」に必要な新時代の神経症候学が提唱されている。このコンセプトは, もともとの特集号でも見事にまとめられていた。今回, バージョンアップされた本書が出版されたことは, 時を得た企画といえる。

執筆者はその領域の第一人者として活躍されている臨床医の方々である。神経内科分野からの編集者である福武敏夫先生は, 神経症候学を究められた平山恵造先生(千葉大学名誉教授)のご指導を最も濃厚に受けた方である。筆者の千葉大学病院での研修医時代には, 平山教授, 福武指導医(当時)からご指導を受け, 神経学の素晴らしさと厳しさを目の当たりにした。福武先生は平山神経症候学の代表的な継承者であるとともに, 近年の診断技術の進歩をまさにダイナミックに診断学に取り入れ, より進化した神経診断学を実践されている。

神経学は非常に多岐にわたる症状・疾患を対象とする分野であり, 臨床医としての知識, 応用, センスが最も問われる領域であるといえる。本書では, 整形外科, 脳神経外科, 神経内科の立場から脊椎脊髄疾患の「診察のこつ」が第 1 章となっており, まずはここを熟読されることをお勧めする。疾患各論の項では, まさに臨床に役立つ臨場感にあふれた記述が満載されている。脊椎脊髄疾患の診療を実践されているすべての方々に必携の書として, 診療に役立つ本書

の出版に心から賛辞を表したいと思う。



B5 判・頁 316 2017 年 3 月
定価: 本体 8,000 円 + 税
[ISBN978-4-89590-586-2]
三輪書店刊